



第 68 回（平成 23 年 12 月 14 日）定例会の講演要旨

石狩市のボランティアガイドの現況

石狩市郷土研究会 高瀬たみ 氏

1. 石狩の歴史

石狩川はアイヌ語で「イシカラベツ」という。「イシカラ」とは「曲がりくねった先の見えない」、「ベツ」は「川」の意。また「イシ」は「美しく」、「カラ」は「作りたる」の意があり、「イシカラベツ」は「神様が美しく作った川」という意味にも解釈できる。天の川は石狩川を反映したものという言い伝えもある。



松前藩が 400 年前（慶長年間、1600 年代）に、石狩川にたくさんのさけが上ることに目をつけて、石狩場所を設定した。石狩川中流地帯を石狩場所といい、河口の町に 13 場所の本小屋があった。

石狩の市町村の歴史は、この地から始まり、300 年の歴史をもつ弁天社、1858 年に創建された石狩八幡神社幕末に建てられた 4 つのお寺が歴史を刻んでいる。また、石狩尚古社という俳句結社が 1856 年に創始され、私設資料館「尚古社」に資料が残されている。

明治に入り、開拓者は石狩川添いに奥地へ上っていったと言われている。

2. ガイドボランティアの歩み

江戸時代までこの地は片仮名で「イシカリ」、または平仮名で「いしかり」と書かれていたので、当会の名称は平仮名で「いしかり」と冠して、「いしかりガイドボランティアの会」としている。

○ 主なガイド活動としては、次のようなものがある。

- ・ 弁天歴史公園内にある歴史的建物などを見学に来る観光客に声をかけて案内する。
- ・ 市内外の各種団体の案内

○ 事業の中のひとつ資料づくりでは、次のものが特筆すべきものとしてあげられる。

- ・ ガイド会員用のガイド学習シリーズ
- ・ 石狩・厚田・浜益までのバスガイド用資料
- ・ 外人向けの英語のガイド資料
- ・ 子ども向けの紙芝居（これは観光案内所に置いてある）

〔註〕以上、配布資料に付随して説明されたところにみを記述しました。詳細は資料を参照して下さい。（文責：小田真二）

次回の予定

次回（2月8日）は会員発表で、佐々木光男氏の「新発寒地区のまちづくり～記念誌発刊を祝し～」と、村元健治氏の「手稲と馬～時代に翻弄された馬達」を学習する予定です。

会場は、視聴覚室です。

第4回歴史年表 学習会資料より

資料提供：茂内義雄氏

配布していただいた資料より、

『北海道開拓使貫属考のⅡ（土族移民 札幌郡白石村・上白石村、手稲村開拓史Ⅱ）
を掲載します。

第三節 手稲村開村事情の詳述

片倉小十郎旧家臣、およそ6百人の集団移住民は、明治4年の札幌郡開拓使計画によって、一団が最月寒辺（白石）へ、のこり一団が登寒村（手稲）に入植した。

家臣団二派の分離は、①いつ、②どこで告げられたのか、
現在その史料の発見にはいたっていない。白石村、手稲と明確に示してきたのは、「白石村百戸形成の報告文」を開拓使に出した後書きに、左記のように示されただけ。

『願之通 白石村、百戸ニ充 残悉皆登寒村ニ繰入ヘキ事』
公団編成、手稲移注方法など不明のことが多い。

一、明治5年「開拓使事業報告」の不統一記述

私が持つ2種の手稲町誌には、入植開拓の年月日のことを次のように書いてある。

1. 昭和43年6月刊「手稲町誌上（昭和42年3月札幌市と合併後）」第三章「北海道の歴史と手稲」五項明治維新と白石藩の記述内容は、拙著、昭和40年刊「札幌白石開拓史（一）」の丸写し状態で表現を変え、十ページにわたって転載してあって参考にならない。
2. 昭和26年11月刊、手稲郡手稲町の「手稲町誌」は、開拓使事業報告や開拓末孫者等の話を載せるなど、努力の跡がみえる。しかし、資料の引用紹介で検証されていないのとみえ、記述に矛盾が認められる。
 - ① 開拓使事業報告に依ると「明治五年十月石狩郡ニ募ル所の舊仙臺藩片倉邦憲ノ家臣男女六百余名ノ内二百四十一名ヲ本村ニ移ス、家作料扶助米金等ヲ賜フ例規ノ如シ、」
 - ② 参考資料とした項に『明治四年八月（略）寒風澤港ヲ発ス、十月石狩ニ達ス、十一月札幌郡月寒村ノ西一里許ヲ隔テ（略）白石村トス、是歳男女式百十一名ヲ手稲ニ移スとある。
 - ① は、『明治五年十月、百四十一を手稲に移す、』とあり、
 - ② は、『年月記載なく、式百十一名ヲ手稲ニ移ス、とある。
- ③ さらに統計表があり、戸数・人口数・開墾面積等を示している。
 - ・ 明治5年の戸主数新四十四。旧住九、計五十三戸。
 - ・ 人口数、男百十四、女百二十七、計二百四十一名。

明治5年で新というのは、白石藩士たちで、旧はそれ以前の慶應2年から住んでいた人達であろう。その人口比はわからない、26年版の手稲町史に門馬武明氏の回想録を紹介し紹介しているのに、肝心の手稲入植時の記述がないし、昭和43年版に引用されている明治9年12月の「札幌郡四小区・手稲村戸籍簿」は所在不明である。

35頁「上手稲村団体移住」の項では、『邦憲、家臣六百余名ノ内二百四十一名を移シ定規の家作料七十五両（略）等を支給』とあるが、これも③の統計表の内訳からみると不思議である。さらに家作料75両支給は、明治6年のことである。

○

上手稲村開村碑文を手がかりとしたいが、入植の年月日と人数については明記されていない。移住月日の唯一の話は、町史「古老座談会」に出席された上手稲出身者S氏が、『両親から昔話を聞かされたが、明治5年2月16日石狩を出発し、途中銭函に一泊した。母は大きなお腹をして銭函から上手稲まで、足駄をはいて堅雪を歩いて假小に這入った。翌18日出産したのが私の長兄です。』と語る真実味のある話をとると、入植は明治5年2月17日となる。